

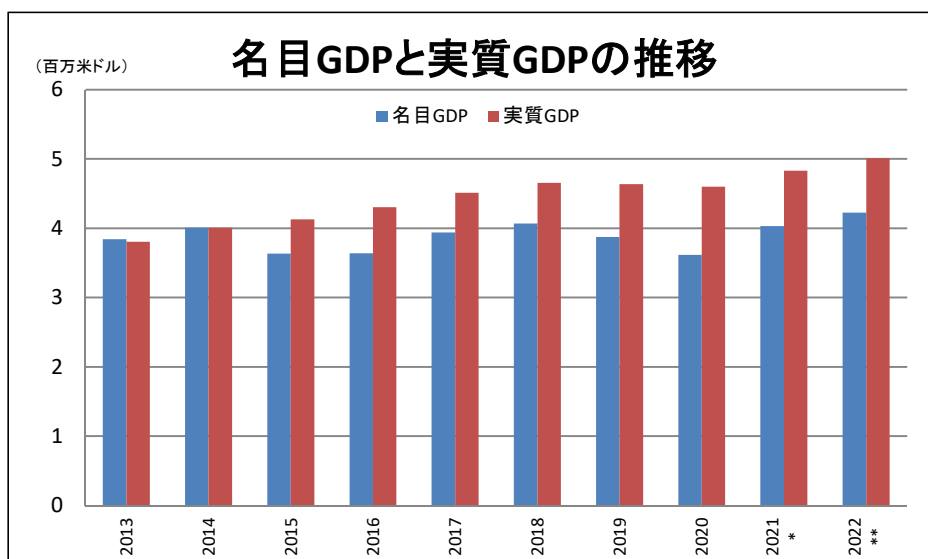
# パラグアイ主要経済指標(2022年2月)

※ I ~ V および VII は全てパラグアイ中央銀行発表データ

## I 名目GDP・実質GDP・経済成長率

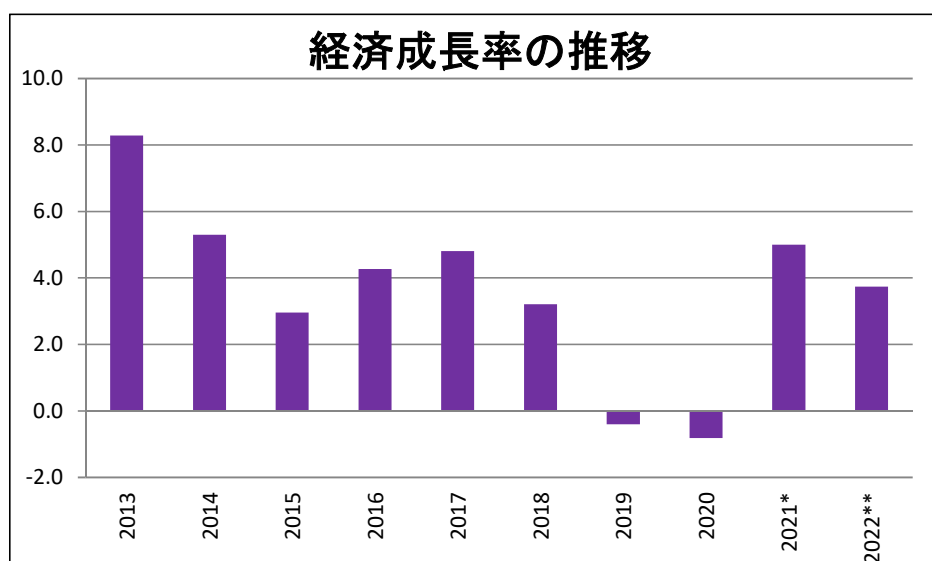
※前月より変更なし

●2月時点で2022年度の名目GDPは42,250百万米ドル、  
実質GDPは50,083百万米ドルと推定されている



※2021年は暫定値、2022年は推定値

●2月時点で2022年の経済成長率は3.7%と推定されている。



※2021年は暫定値、2022年は推定値

## II 貿易

### <2022年2月貿易データ概要>

#### (1)輸出

2月の輸出総額は**748,722千米ドル**であり、1～2月の総額は**1,232,095千米ドル**となった。

##### \* 前年度比12.2%増

(大豆種子461.2%増、大豆油81.7%増、大豆粉37.9%増、穀物52.9%減、肉類25.9%増、電力43.6%減、自動車部品(ハーネス)2.3%減、その他26.2%増)

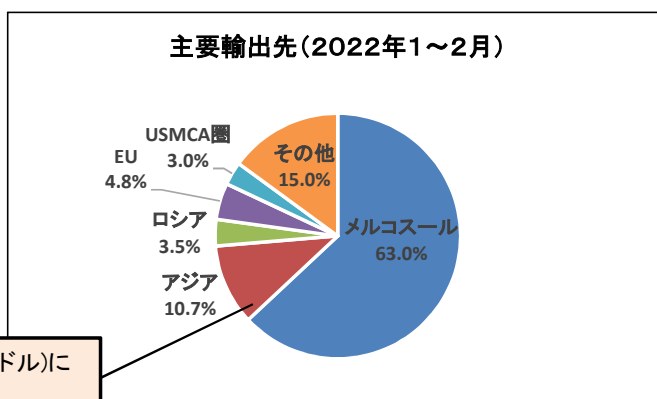
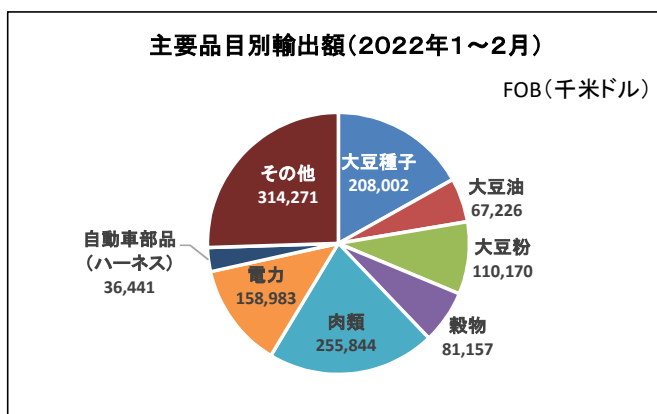
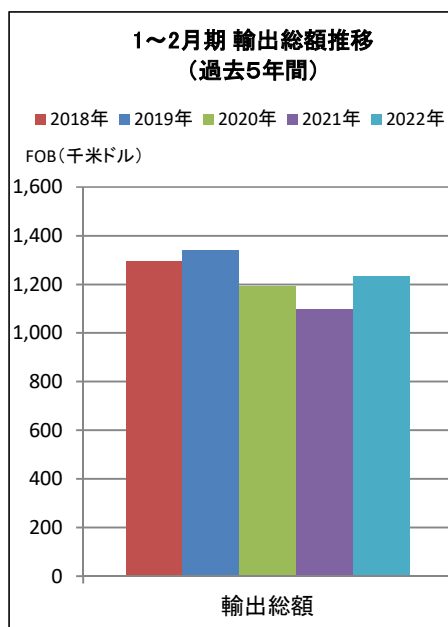
#### (2)輸入

2月の輸入総額は**1,047,325千米ドル**であり、1～2月の総額は**2,140,607千米ドル**となった。

##### \* 前年度比32.8%増

(食料品12.4%増、酒類・タバコ32.5%減、紙・布類・薬・衛生用品等26.5%増、燃料73.3%増、自動車・電子機器等21.5%増、化学物質・薬品29.9%減、機械類・部品17.5%増、その他212.3%増)

#### (1)輸出



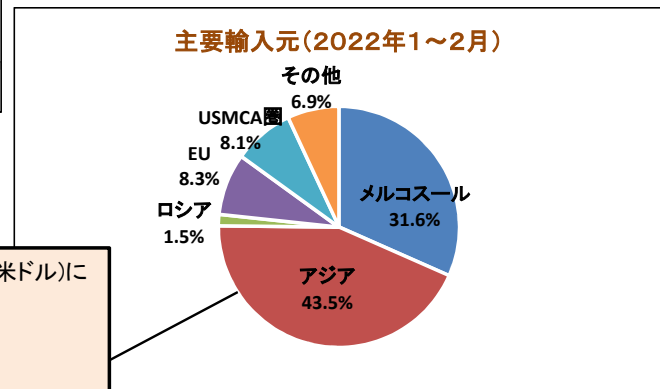
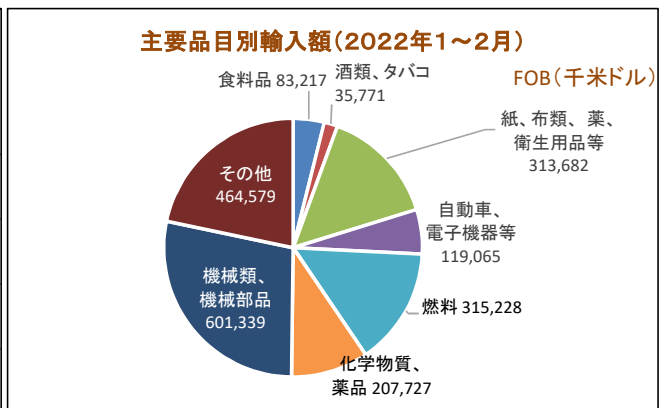
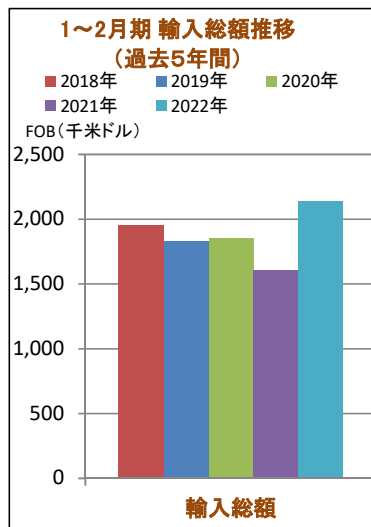
【アジア向け輸出(総額131,287千米ドル)に占める割合】

台湾: 37,230(千米ドル)【28.4%】

日本: 749(千米ドル)【0.6%】

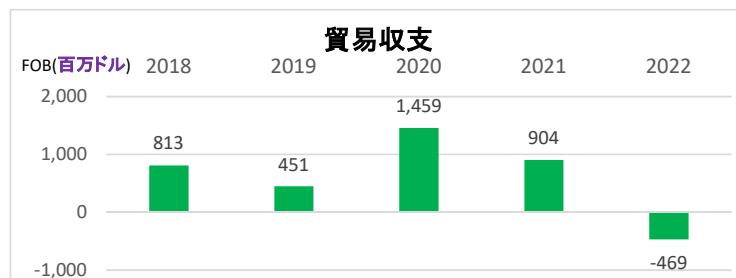
中国: 5,581(千米ドル)【4.3%】

## (2) 輸入



【アジアからの輸入 (総額505,126千米ドル)に占める割合】  
 台湾: 5,403(千米ドル)【0.6%】  
 日本: 30,236(千米ドル)【3.2%】  
 中国: 706,401(千米ドル)【75.8%】

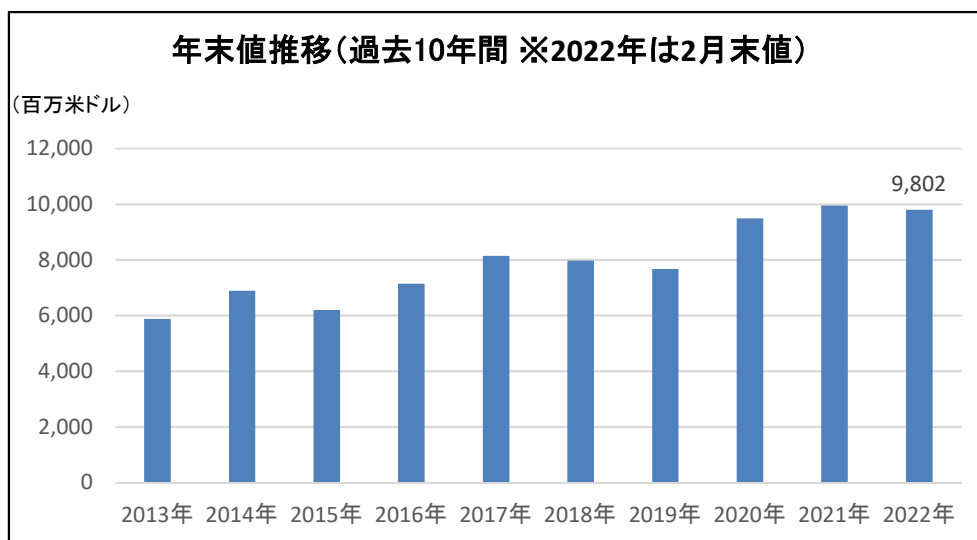
## (3) 貿易収支(過去5年間、再輸出等を含めた総額ベース)



※2022年は1～2月データ

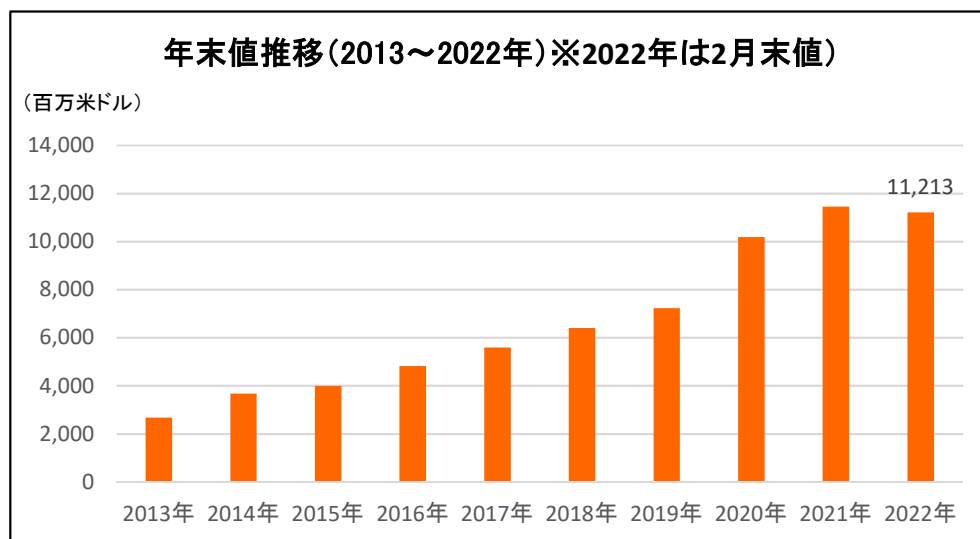
### Ⅲ 外貨準備高

2022年2月末の外貨準備高は、約9,802百万米ドルであった。



### Ⅳ 対外累積債務

2022年2月末の対外累積債務額は、約11,213百万米ドルであった。



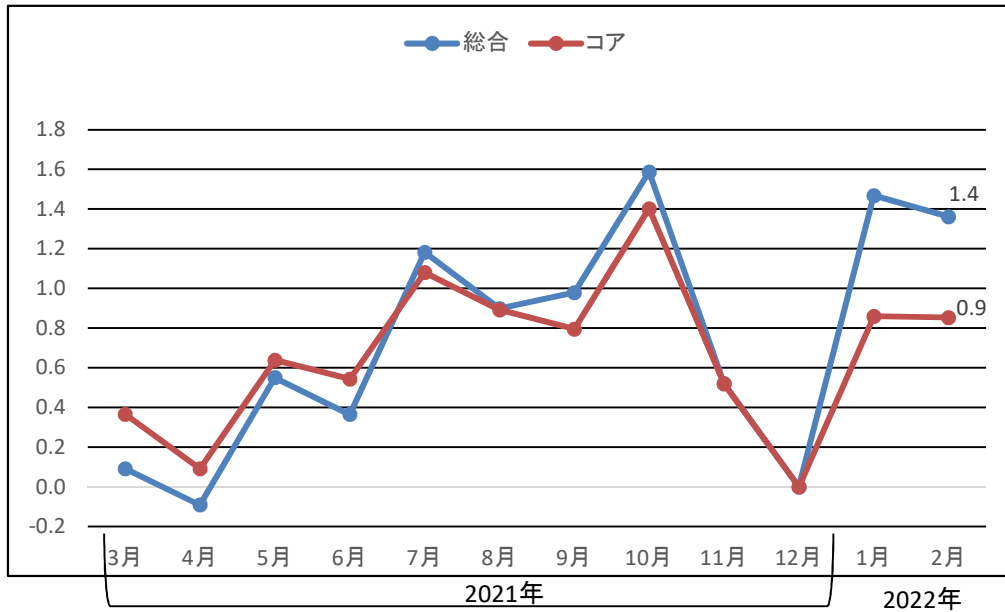
## V 消費者物価指数

<消費者物価指数概要> \*小数点第二位切上げ

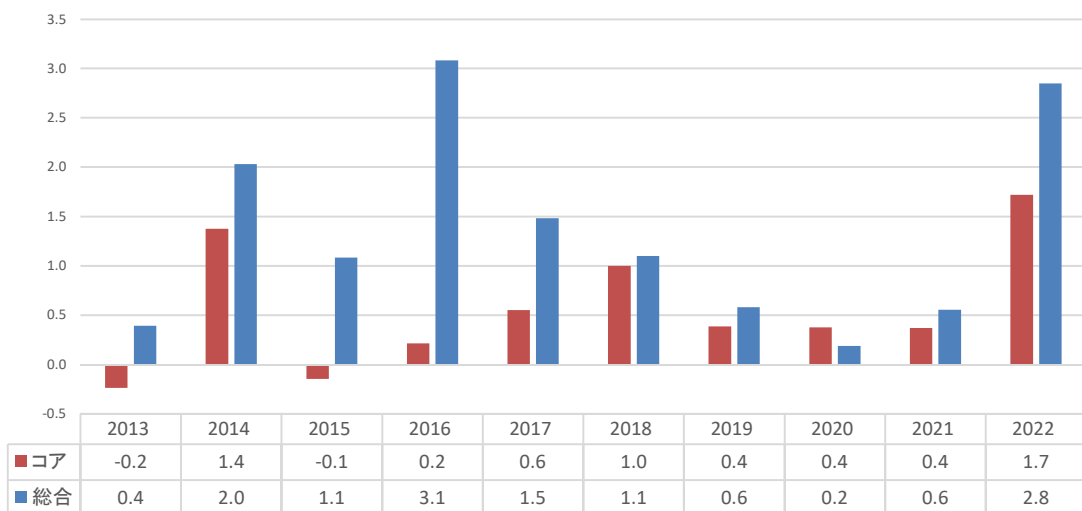
(1)2月の消費者物価指数月間上昇率(総合)は1.4%であった。

(2)2月の消費者物価指数月間上昇率(コア)は0.9%であった。

### <過去12か月推移>



### 【参考】2013～2022年 年間累積値(2月時点)比較



## VI 雇用統計(パラグアイ統計局発表)

2021年第4四半期の失業率(全国)は6.8%(256,860人)であり、前期より0.3ポイント上昇した。  
依然として都市部の女性の失業率が高い。

### <2021年(四半期)失業率(%)推移>

期間	全国	男/女(全国)	都市/農村
2021年 第1四半期	8.1	6.7/10.2	8.9/6.8
" 第2四半期	8.6	6.6/11.2	10.2/5.6
" 第3四半期	6.5	5.5/7.9	7.9/4.0
" 第4四半期	6.8	4.8/9.6	8.2/4.2

←3月末更新

※BoquerónとAlto Paraguay除く  
\*小数点第二位切り捨て

### <最低賃金>

2022年2月現在: 2,289,324グアラニー

参考: 最低賃金の改定歴(2010年~, グアラニー)

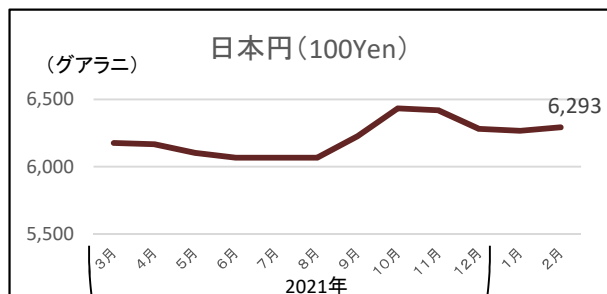
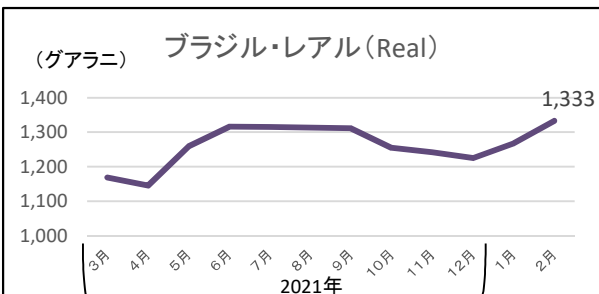
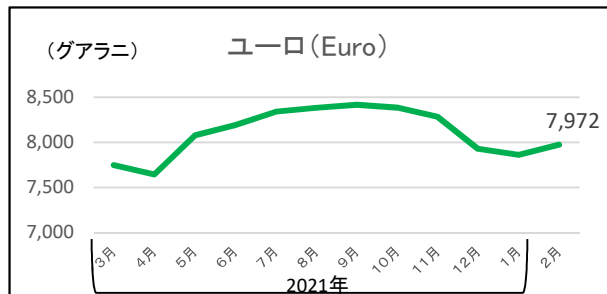
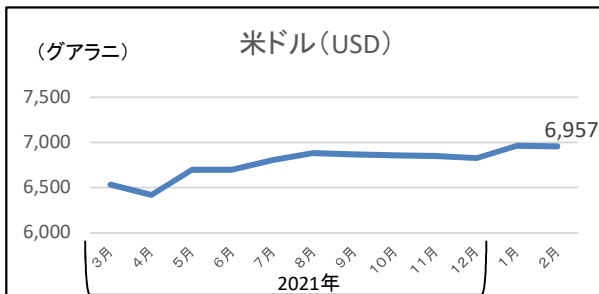
改定日	最低賃金	一日あたりの賃金	前回からの増加率
2010年7月	1,507,484	57,980	7%
2011年4月	1,658,232	63,778	10%
2014年3月	1,824,055	70,156	10%
2016年12月	1,964,507	75,558	7.7%
2017年7月	2,041,123	78,505	3.9%
2018年7月	2,112,562	81,252	3.5%
2019年7月	2,192,839	84,340	3.8%
2021年7月	2,289,324	88,051	4.4%

## VII 為替相場

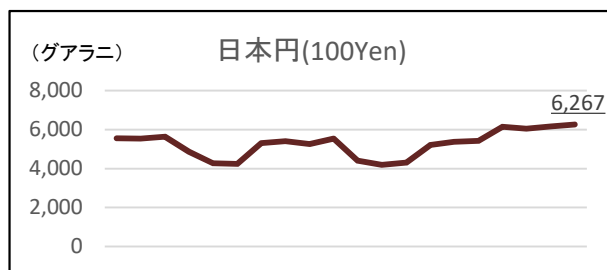
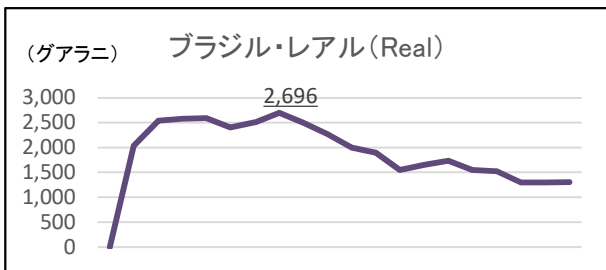
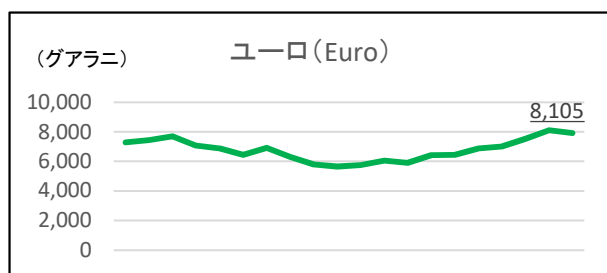
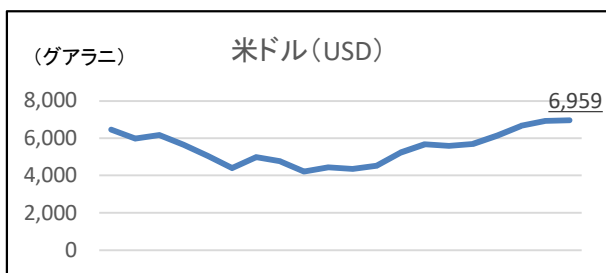
<為替レート概要(月平均値、売値)>

- (1) 対ドル(Gs/US\$)  
2月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は6,957 Gsとなった。
- (2) 対ユーロ(Gs/EURO)  
2月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は7,972 Gsとなった。
- (3) 対リアル(Gs/REAL)  
2月の対リアル為替レート(Gs/REAL)は1,333 Gsとなった。
- (4) 対日本円(Gs/円)  
2月の対日本円為替レート(Gs/円)は6,293 Gsとなった。

<過去12か月推移>



【参考】各主要通貨対グアラニー為替相場: 年平均値推移(2003~2022) (下線部は最安値)

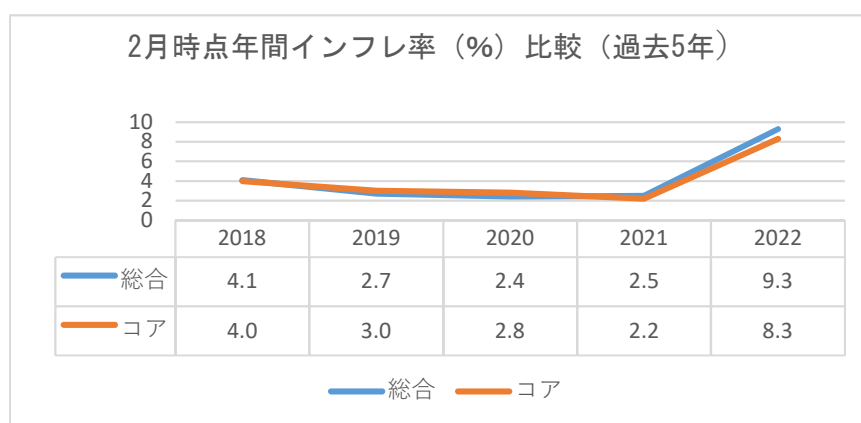
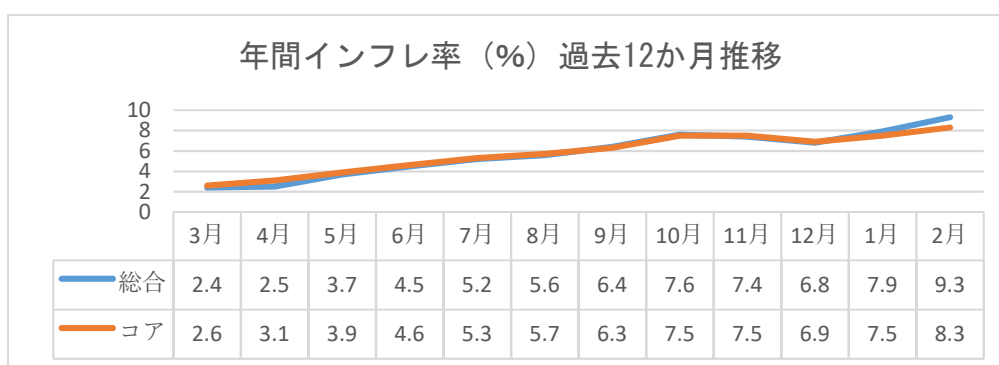


## パラグアイにおけるインフレの現状

2022年3月  
在パラグアイ日本国大使館経済班

### 1 物価状況概観<sup>1</sup>

パラグアイ政府は、2017年にインフレ目標を消費者物価指数（CPI）年間上昇率4%、許容レンジを±2.0%に定めているが、2021年10月には、インフレ目標を導入した2011年<sup>2</sup>以来、初めて目標上限を超過した。翌11月、12月は微減したものの、年明けには再び上昇傾向となり、2022年2月のCPIが119.1、年間上昇率が9.3%に達した。



2022年2月のCPIを項目別に見ると、「果物および野菜」が137.7、年間上昇率が34.1%、「燃料」が150.4で同39.8%であり、全体的な物価上昇率を押し上げている。

「果物および野菜」に関しては、2022年2月の生産者物価指数（PPI）において国産

<sup>1</sup> データ出典元は全てパラグアイ中銀（アスンシオン首都圏統計、CPIは基準時=2017年12月）。インフレ率「コア」は総合から果物および野菜を引いたもの。

<sup>2</sup> 2011年導入時のインフレ目標は5%±2.5、その後、2014年（5%±2.0）、2015年（4.5%±2.0）、2017年に改定された。



農産物が前年同月比 53.6%と全体の中で最も高い上昇率であり、国内での長期にわたる雨量不足や高温による収穫不良が主な要因となり、価格が上昇したと考えられる。

前年 2 月比 生産者物価指数 (PPI) 上昇率 (過去 5 年)

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
<b>全体</b>	<b>3.8%</b>	<b>2.5%</b>	<b>1.9%</b>	<b>1.5%</b>	<b>4.6%</b>	<b>16.8%</b>
国内産品	7.3%	4.7%	-0.4%	-0.1%	6.0%	20.6%
輸入品	0.0%	-0.1%	4.6%	3.5%	3.1%	18.0%
国産農産物	19.6%	4.2%	-3.5%	-1.9%	13.0%	53.6%
輸入農産物	8.5%	-7.1%	7.3%	3.8%	11.6%	18.0%
輸入木材	0.0%	0.0%	0.0%	12.8%	0.0%	28.6%

## 2 燃料価格の高騰およびその影響 (本文：報道ベース)

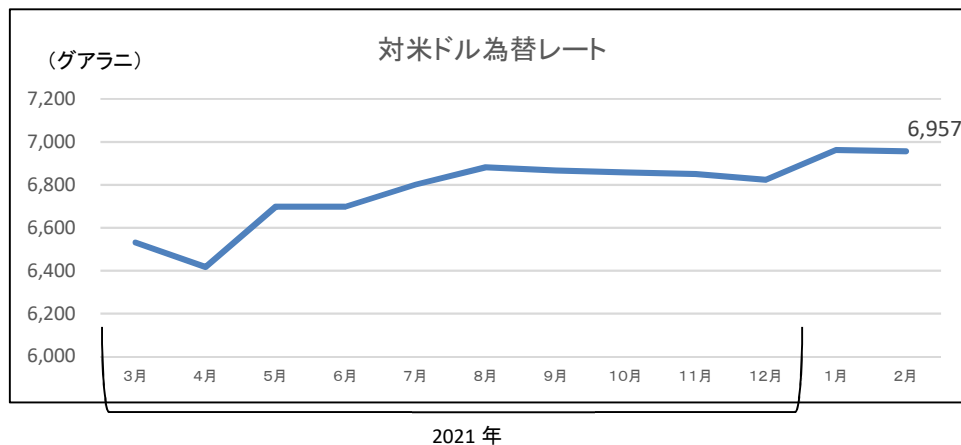
(1) 新型コロナウイルス感染症対策による各種制限の緩和により、世界的に経済活動が再開されたことで燃料の需要が増したことを背景に、パラグアイ国内の燃料価格は 2021 年初頭より上昇を見せた。全国で最も需要の高い軽油の CPI は、2019 年 7 月以降、月別統計で増加したことがなかったが、2021 年 2 月に 19 か月ぶりに増加し、前月比 3.3% となった。高い年間上昇率となった同年 6 月から、トラック運転手連盟 (La Federación de Camioneros del Paraguay) および運送業労働組合 (La Dirección Nacional de Transporte, Dinatrán) が運送料の値上げを主張し、翌 7 月 28 日にストライキを開始し、約 1 千台のトラックが国道を封鎖するとともに、アスンシオン市内でデモを行った。同ストライキは、8 月 19 日に運送業者、政府、穀物輸出業者の間で、運送料の約 30% 値上げに関する合意がなされ、ストライキは解除された。

【消費者物価指数：軽油 (2021 年 1 月～2022 年 2 月)】

	指数	前月比 (%)	年間上昇率 (%)
1月	108.2	0.0	-12.4
2月	111.8	3.3	-9.5
3月	116.6	4.3	-4.4
4月	117.6	0.9	2.9
5月	121.3	3.1	9.2
6月	127.2	4.9	17.6
7月	135.7	6.7	25.4
8月	136.6	0.7	26.2
9月	136.6	0.0	26.2
10月	146.1	7.0	35.0
11月	151.0	3.4	39.6
12月	145.1	-3.9	34.1
2022年1月	151.0	4.1	39.6
2月	157.0	4.0	40.4

(2) しかしながら、ウクライナ・ロシア間の緊張状態及びロシアによるウクライナ侵攻を受け、原油価格が上昇したことで、2022年1月から国内の燃料価格の値上げが続き<sup>3</sup>、パラグアイ政府は一部燃料に対する選択消費税 (Impuesto selectivo al consume, ISC) の引下げなど、過度な燃料価格上昇の緩和を試みたが、2022年3月14日、トラック運転手連盟は再び国道を封鎖するストライキを実施した。政府は、ストライキ開始後、パラグアイ石油公社 (Petropar) を通じて軽油およびガソリン各1種を値下げし<sup>4</sup>、3月25日には、2か月間の期限で<sup>5</sup>、Petropar が最終燃料価格から値下げを行い、その値下げ分を公庫が負担する旨の時限法を公布した。

(3) トラック運転手連盟による道路封鎖は徐々に解除されたが、ガソリンスタンドを経営する民間企業からは、上記時限法が Petropar を優遇し、競争を妨げるものとして批判されている。また、3月28日より、各種燃料価格を1リットル当たり1,000グアラニーから1,500グアラニー値上げした。現在、原油価格の上昇とともに、ドル高グアラニー安傾向が進んでおり、今後も燃料価格の上昇が予想される。



<sup>3</sup> 2021年12月10日から31日までの期間限定で1リットル当たり250グアラニーの値下げが実施されたが、2022年1月に600グアラニー (全燃料平均) 値上げし、2月25日に500~700グアラニーの値上げが決定された (3月1日から実施)。

<sup>4</sup> 2度にわたり、軽油: tipoIIIは計1,000グアラニー、ガソリン: 93オクタンは計800グアラニーの値下げが行われた。

<sup>5</sup> 30日間の延長可能。